

# ミクロネシアの旗

第9部 それぞれの理想

2006.7.22

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート

仮説実験授業研究会・北海道・丸山秀一

[C]Maruyama Shuichi



北マリアナ諸島コモンウェルスの旗 Zeljko Heimer

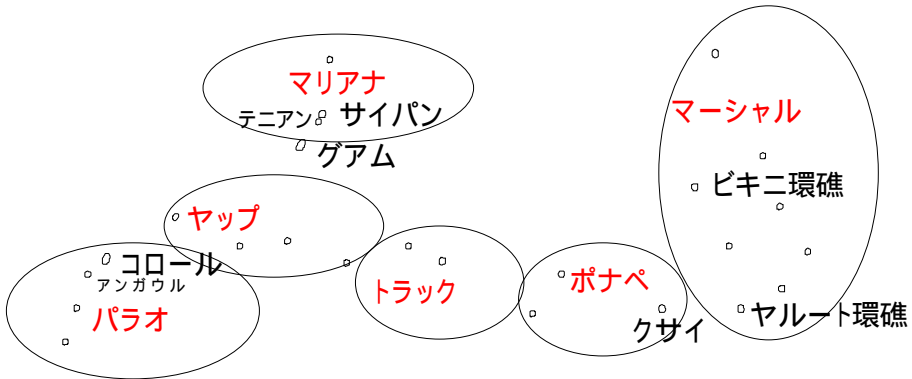
将来の独立を目的とし、分離は認められていなかったはずのミクロネシアでの信託統治は、マリアナ諸島が分離して米領コモンウェルスとなっていました。残った地区は、「自由連合」を政体を選んで、米国との政治地位交渉を続けていました。そして、核開発と核実験も終わりなく続けられていました。

【問題】

1975年、ミクロネシアからマリアナ諸島が離脱し、米自治領となった後、残ったミクロネシアの各地区は、連邦憲法草案を起草しました。その草案には憲法としては、世界初の規定がありました。それは何だったと思いますか。

予想

- ア 非武装中立
- イ 非核
- ウ 軍事基地禁止
- エ そのほか



## 非核憲法

その憲法草案には「ミクロネシア連邦政府の明確なる承認無しには、一切の核を禁ずる」とあり、世界初の非核憲法でした。また、ミクロネシア人以外による土地の取得と軍事利用を明確に禁止していることも大きな特徴でした。

この草案が起草される4か月前、米軍は「太平洋共同艦隊構想」をフォード大統領に提出していました。それは「日米共同のミクロネシア太平洋合同軍を作り、司令部を横須賀かグアムに置く」というもので、「ミクロネシアにおける日本の役割」が次のように述べられていました。「日本はいまや我々を助ける立場にある。日本がそこに国益を見いだすかどうか定かではないが、可能性はある。ミクロネシアでの日本の役割が増大すると、西太平洋での力の均衡は米国に有利になり、日米関係はより緊密化する。米軍事費とミクロネシアへの援助費も軽減される。ミクロネシアの経済も繁栄する。両国の太平洋政策の曖昧さを打ち消し、日本再軍備の管理にも役立つ」

しかし、太平洋諸国は別の動きをしていました。1975年2月に開かれた第一回非核太平洋会議は、「太平洋を非核地帯とする決議」と「ミクロネシアの軍事基地撤廃決議」を採択しました。それを受けて、南太平洋フォーラムは「南太平洋非核兵器地帯設立構想」を採択、それをフィジーとニュージーランドが国連に提案しました。

【問題】

では、国連総会で「南太平洋非核兵器地帯設立構想」に対して、多くの核保有国はどんな反応をしたと思いますか。

予想

- ア 反対した
- イ 棄権した
- ウ 賛成した
- エ なんともいえない



1971年に発足した南太平洋フォーラムは、南太平洋諸国のサミットであり、「南太平洋のミニ国連」とも称される。その後、北太平洋諸島諸国も加盟して発展し、2000年に名称を「太平洋諸島フォーラム」に変更した。

## 反対ゼロ

国連総会で「南太平洋非核兵器地帯設立構想」は、賛成 110 か国、反対 0 で承認されました。棄権は 20 か国であり、南太平洋で核実験を続けるフランスを含め、すべての核保有国が棄権しました。この決議により、南太平洋諸国は、非核地帯の実現へ向けて努力していくことになります。日本でも、1976 年 6 月、福竜丸展示館が東京に開館し、政府もようやく核拡散防止条約 (= NPT) を批准しました。

しかし、10 月に、米国の大学生が「57 キロのプルトニウムと 2000 ドルの製造費で小型原爆（威力は広島型の 1/3）製造可能」の論文を発表し、核拡散は現実のものとなっていきました。11 月には、中国が 4 メガトンの水爆実験を行い、死の灰は米国にも到達しました。

1977 年 11 月、日本は使用済み燃料の再処理で初めて 820 グラムのプルトニウムを抽出し、潜在的核保有国となりました。同じ月、フランスがモルロア環礁で行った地下核実験は、周辺の島々に高波の被害をもたらせ、島民 20 名を被爆させました。



Topham/The Image Works

## 史上初の核兵器

1945 年 7 月 16 日、人類史上初の核爆発によるきのこ雲がアメリカ・ニューメキシコ州アラモゴードの上空にたちのぼった。これは、「マンハッタン計画」という原

爆製造計画にもとづくもので、プルトニウム 239 が原料として使用された。プルトニウム 239 は、同年 8 月 9 日に長崎市に投下された原子爆弾ファットマンにも使用された。現在の核弾頭のほとんどはプルトニウム 239 である。

Microsoft(R) Encarta(R) 2006. (C) 1993-2005 Microsoft

### 【問題】

ミクロネシアの旗にある 6 つの星は、マリアナ、パラオ、ヤップ、ポナペ、マーシャル、トラックの 6 地区を表していました。では、マリアナ諸島がミクロネシアから分離したことで、ミクロネシア議会は、ミクロネシアの旗を変更したでしょうか。

予想

- ア 変更しなかった
- イ 星をひとつ減らした
- ウ 全く違うデザインのものにした
- エ そのほか

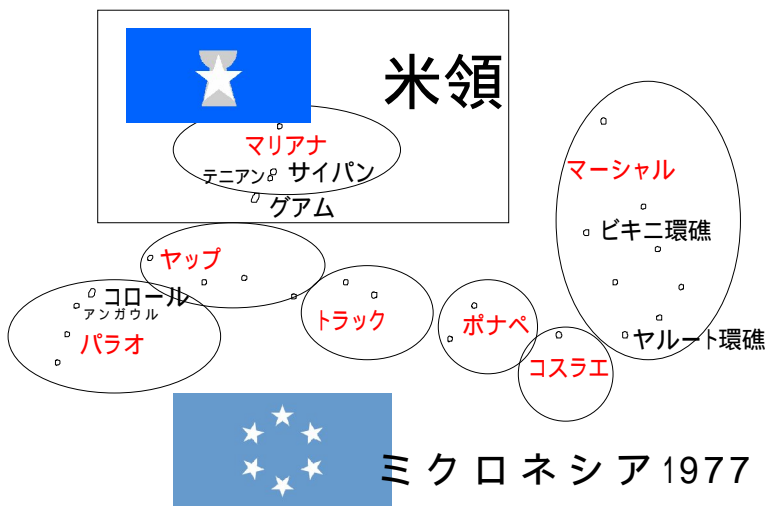


ミクロネシアの旗  
by Zeljko Heimer

## 6つ星

1976年4月、マーシャル諸島は信託統治領政府より分離し、ミクロネシアは5地区となりました。しかし、ミクロネシアの旗は変わりませんでした。そして、翌年にはクサイ島がポナペ地区から分離して、新しくコスラエ地区となったことで、ミクロネシアは再び6地区となったのです。

しかし、パラオは1976年9月の住民投票で過半数が「ミクロネシアからの分離独立」を希望しており、マーシャルも1977年7月の住民投票で分離独立が支持されていたのでした。ミクロネシア議会はあくまで「ミクロネシアの分離をもたらす分離交渉は認められない」としていましたが、米国は、ミクロネシア、パラオ、マーシャルとそれぞれ個別の政治的地位交渉を始めました。交渉では、「CIAがミクロネシア側担当者の監視活動をしていることに対する問題」が出されましたが、米国は「この件はすでに解決済みである」としただけでした。



【問題】

日米戦争と米占領によるミクロネシアの損害を賠償するためのミクロネシア請求委員会は、1976年7月、日米戦争によるもの3400万ドルを認定しました。しかし、それは予定の1000万ドルをはるかに上回る額でした。

それでは、米国は全額を支払ったと思いますか。

予想

- ア 1000万ドルのみ支払った
- イ 全額を支払った
- ウ 超過分は日本にも支払わせた
- エ そのほか



Kosrae's Sleeping Lady at Sunset.

Photo © FSM Visitors Board.



### 責任分のみ支払い

ミクロネシア協定では、日米がそれぞれ 500 万ドル（日本は役務や資材で提供）を出し合った 1000 万ドルを請求額が超過しても、その割合に基づいて按分するはずでした。しかし、米国下院は全額支払いのための追加資金提供を認めました。それが上院では「不足分 2400 万ドルは」日本政府がその半分を負担すべきで、日本が払わない限り米国も払わない」と決議されたのでした。

### 【問題】

ミクロネシアに対する戦時賠償を認めない日本は、ミクロネシアが求めた 2400 万ドルの半분을、その後、支払ったのでしょうか。

### 予想

- ア 支払った
- イ 一部のみ支払った
- ウ 支払わなかった

## 賠償と援助

日本は、「戦争中のミクロネシアは日本の領土であり、自国領土に対する戦時賠償責任はない。しかし、人道的援助として、ミクロネシア協定で500万ドルを出しているので、この問題は解決済みである」と支払いを拒否しました。

そこで国連信託統治理事会は「戦時賠償問題を信託統治終了までに人道的に解決することを日米両国に求める決議」を採択しました。それに対して日本は、「賠償ではなく、無償資金協力」として1980年度より10年間で、総額127億円を出しました。そこで米国も「日米戦争に関係する分の50%分」を支払いました。



トラック Photo © FSM Visitors Board.

### 【問題】

ミクロネシア議会，マーシャル，パラオの三地区が米国との個別交渉を始めて2回目の交渉で3地区とも「自由連合の原則に関する協定」で米国との合意に達しました。それは，米国が初めて「外交権」と「自由連合協定の一方的終了権」を認めたからですが，外交権は「安全保障以外」に限られたもので「権限実施の際は，米国と協議し，米国の安全保障の権限と矛盾する行動は慎むこと」となっていました。

それでは「一方的終了権」には，どんな条件がついていたのでしょうか。

#### 予想

- ア 無条件
- イ 「住民投票による80%以上の同意が必要」
- ウ 「援助金の一部を返還すること」
- エ 「安全保障の権限は終了後も米国にあること」
- オ そのほか

## 原則合意

この合意では、「米国の安全保障の権限は少なくとも 15 年間は保障される」とあり、ミクロネシア側が一方的に終了できるとしても、その条件は「米国の安全保障，防衛権限と責任の継続」でした。つまり，自由連合協定を維持しても破棄しても，米軍基地は存続するわけです。そして「ミクロネシア側がこの協定を終了した場合は，以降の経済援助の義務は生じない」となっていました。

## 【問題】

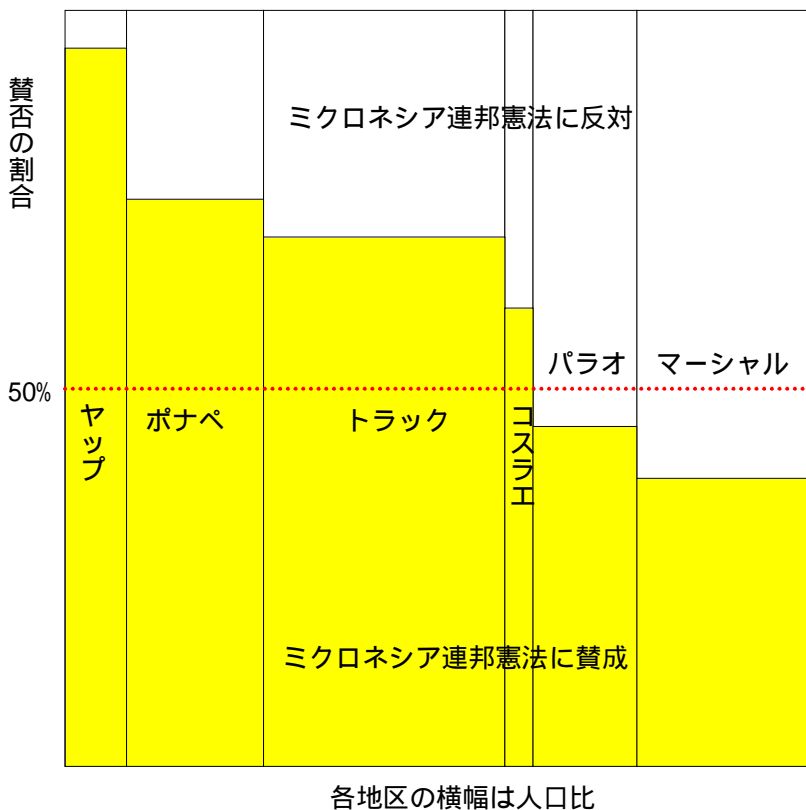
1978 年 7 月，ミクロネシア連邦憲法草案が，ミクロネシアの 6 地区で住民投票にかけられることになりました。この住民投票で過半数の賛成がなかった地区は，ミクロネシア連邦を認めない，つまり，ミクロネシア連邦には加わらないことになったのです。

ポナペ，ヤップ，トラック，コスラエの各地区では，過半数の賛成がありましたが，パラオとマーシャルではどうだったと思いますか。

予想    パラオ（ ）    マーシャル（ ）

- ア 過半数の賛成
- イ 40%ぐらいの賛成
- ウ 25%ぐらいの賛成
- エ ほとんど賛成はなかった

「分割されたが故に統一を願う」



ミクロネシア連邦憲法は、その前文に「戦争を知ったが故に我々は平和を望む。分割されたが故に統一を願う。支配されたがゆえに自由を求める。・・・世界は一つの島なのだ」とあるものでした。住民投票で分離独立の意志を示していた、パラオとマーシャルは、この憲法に対する賛成はそれぞれ 45%と 40%でした。

この住民投票の結果を受けて、米国国務省は、マリアナ地区を除く信託統治領をミクロネシア連邦、マーシャル地区、パラオ地区

に再編成する暫定移行措置を行い，ミクロネシア議会を解散し，立法権が各地区の議会へ付与されました。こうして，ミクロネシアはまた分割されることになったのです。

【問題】

憲法を制定したミクロネシア連邦は，国旗を制定しました。では，その国旗は，それまでのミクロネシアの旗と同じだったのでしょうか。

予想

- ア 同じ旗だった
- イ まったく違う旗だった
- ウ 星の数が違っていた



ミクロネシアの旗 by Zeljko Heimer

## ミクロネシア連邦の旗



by Zeljko Heimer

ミクロネシア連邦の国旗は、米国旗の習慣に合わせて、星の数をパラオとマーシャルが抜けた分を減らして4つにしたものでした。そして、その4つの星を十字に配置して、南十字星とキリスト教も表すことにしたのです。

### 【問題】

分離したパラオとマーシャルは、それぞれ憲法草案を作成しました。米国は「パラオの憲法草案は、自由連合の原則と矛盾する」として、特に以下の三点の修正を要求しました。では、パラオ側は、問題となったその三点を修正したでしょうか。

予想 ア 修正した      イ 修正しなかった

- ( ) 領海は200カイリ
- ( ) 外国政府のための土地収用禁止
- ( ) 非核条項

## パラオ憲法草案

パラオが領海を国際法よりも拡大したのは、漁業資源の確保のためでした。しかし、領海が 200 カイリに拡大されると、パラオの島々の間は、パラオの領海となり、米軍の行動が著しく制限されることとなります。また「外国政府のための土地収用禁止」では、米軍基地の設置が困難になりますし、「非核条項」では「核兵器の持ち込みに住民の 3/4 以上の賛成が必要」となります。そこで米国は強く修正を求めたわけですが、この三点についての修正をパラオは拒否して住民投票にかけることを決定しました。

同じ頃、マーシャルでも憲法案が住民投票にかけられて、64%の賛成により承認されていました。マーシャル憲法には非核条項がありませんでしたが、ミクロネシア連邦憲法には、非核条項がありました。米国がミクロネシア連邦に修正を求めなかったのは、米軍がそこを必要としていなかったからに他なりません。

### 【問題】

マリアナは、米領になったとはいえ、内政自治権をもっていますから独自憲法を制定できました。北マリアナ諸島コモンウェルスが採択した憲法には、「土地の所有は北マリアナ人とその子孫に限る」という規定がありましたが、その憲法を米国は認めたと思いますか。

予想

- ア 認めた
- イ 修正させた
- ウ そのほか



## 米国領土

米国は北マリアナ諸島憲法をそのまま認めました。米国にとって、マリアナは貴重な軍事基地なのですが、土地の所有を制限する憲法は問題にならなかったのでしょうか。

北マリアナ諸島は内政自治権があるものの米国領です。そこでは、米国連邦法が常に上位法なのです。さらに、この土地所有の人種による制限は、「人種差別」と判断される可能性のあるものでした。

## 【問題】

1979年5月1日、マーシャル諸島共和国憲法が発効し、自治政府が発足しました。では、自治政府が制定した国旗はどんなデザインのものだったのでしょうか。次のどの旗に似ていたのでしょうか。

## 予想

- ア ミクロネシア連邦
- イ 北マリアナ諸島
- ウ 米国旗
- エ そのほか

## マーシャルの旗



by Zeljko Heimer,

マーシャル諸島共和国の旗は、太平洋を表す紺の地に、二列に連なるマーシャル諸島を2色のラインで表し、24の地方を表す星を置いたものです。星の光の線のうち4本が長いのは、4つの代表的な地区を表すと共に、十字架も表しています。また、ラインを赤道と見ると、星がマーシャルの位置を表しているというわけです。

この国旗は、国旗図案コンクールで優勝した、初代大統領夫人のデザインによるものです。また、この旗が、マーシャルのすぐ南にあるナウルの国旗に似ているのに気がついた人がいるかも知れません。

ナウルは、1968年に英国、オーストラリア、ニュージーランドの共同による国連信託統治から独立した国で、ナウル人の多くはミクロネシア人でもあります。豊富な燐鉱石の輸出により、財政が太平洋島嶼国随一の豊かなナウルは、税金もなく、教育、医療、電気代も無償でした。マーシャルの人たちは、そのナウルを理想の国としたのでしよう。



by Zeljko Heimer

ナウル旗の金色のラインは赤道を表し、星がナウルの位置を表しています。

【問題】

1979年3月、米国スリーマイル島でメルトダウンの原発事故が起きました。そして、スペインでは5万人の反原発デモがあり、スイスは国民投票により新規原発を禁止しました。また、クワジェレンでは、実験で打ち込まれるミサイルに劣化ウランが使用されていることが明らかになり、新たな核汚染が問題となっていました。ヨーロッパではソ連に対抗してNATOも中距離核ミサイルを配備することが決定しました。

そのような中、米ソは第二次戦略兵器制限協定SALT2を結び、ICBMの総数をさらに削減、複数核弾頭MIRVと戦略爆撃機の総数も削減することに合意しました。

では、米ソの核実験はそれにより減ったでしょうか。

予想

- ア 減った
- イ ほとんど変わりなかった
- ウ 増えた

## SALT2

SALT2 は、7 年間の交渉の末、ようやくまとまったもので、個別誘導複数核弾頭(MIRV)化された ICBM が 820 基まで、これに MIRV 化された SLBM を加えた上限が 1200 基とされました。

	米国	ソ連
SALT2 前年	18	27
SALT2	16	29
SALT2 翌年	17	21

しかし、SALT2 も核実験には何の影響も及ぼしませんでした。米ソとも核兵器開発のための核実験をそのまま続けていたからです。

当時の米ソの核弾頭の保有数は、それぞれ 2.4 万発と 2.8 万発であり、その総破壊力は広島型原爆の 100 万倍=TNT 火薬 130 億トンに匹敵するものでした。

ヨーロッパに配備された中距離核ミサイルは、着弾まで 30 分かかる ICBM と違って、滞空時間の短いため、発射されたが最後、対処不能ですぐさま核戦争につながる危険性があるものでした。

さらにカーター大統領は移動発射式核ミサイル(MX ミサイル)の開発を決定しました。ふつうの核ミサイルは固定陣地にあるため、そこをねらって破壊されると核報復能力を失いますが、移動発射式だとそういう心配もないというわけです。また、カーターは大統領令で核戦争時の攻撃目標を、「人道的に」配慮して、それまでの「大都市、工業施設」から「ミサイル基地、司令部、部隊集結地」に変更しました。これは核戦争への敷居を下げることになりました。こうして核戦争への「秒読み」が進められていったのです。

さらに、年末にはソ連がアフガニスタンに侵攻したため、米国議会は SALT2 の批准を拒否しました。7 年後、レーガン政権は MX ミサイルを実戦配備し、核ミサイルの総数が SALT2 の上限を超えました。こうして SALT2 は破棄され、核保有国は核兵器のさらなる増産を始めたのです。

スリーマイル島原発事故は、ヨーロッパ各国で脱原発の流れを加速しました。しかし、日本では、学会会議と原子力委員会が「日本ではスリーマイル島のような事故は起きない」と結論し、21 基目の原発の営業運転を開始、西側世界第二位の原子力発電国となりました。そして、人形峠では、ウラン濃縮実験が始まりました。

1981 年には、敦賀原発での放射能漏れ事故の隠蔽が明らかになりましたが、通産省は「すべてのトラブルを公表していけば、日本の原発は運転不可能になる。そのような公表が国民の利益になるとは、肯定しがたい」と隠蔽工作を不問としました。



スリーマイル島  
原子力発電所。  
真ん中手前の  
二つのドームが  
原子炉。周辺  
住民の被曝は  
1mSv 程度と  
される。21 世  
紀初頭現在も  
なお原子炉内

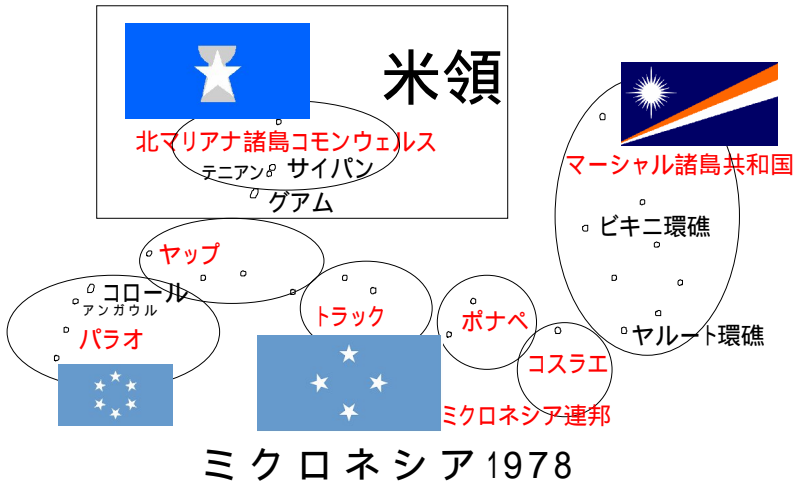
には広島型原爆数百個分のストロンチウム、セシウム、ヨウ素が残っている。

【問題】

大規模な放射能汚染には、核兵器によるもの、原発によるものと、核廃棄物によるものがあります。1979年、日本原子力委員会は、「放射性廃棄物はマリアナ沖で海洋投棄するのが妥当」と結論しました。これに対して、ミクロネシアの各国と地域は、それぞれ反対決議をしましたが、後にある「国・地域」が受け入れを表明しました。それはどこだったのでしょうか。

予想

- ア グアム
- イ 北マリアナ諸島
- ウ マーシャル諸島共和国
- エ パラオ
- オ ミクロネシア連邦



## 核廃棄物の行方

日本の外務省は、ミクロネシア各地からの反対について「ミクロネシアの領海外での試験投棄だから、断る必要はないのに、在外公館のあるところでは説明してあるのだが」と述べました。つまり在外公館のないミクロネシアには説明もしていなかったのです。

そこで1980年8月の太平洋拡大首脳会議で、日本は投棄計画を「日本は原発に転換することで限りある資源の石油を節約して世界に貢献している。投棄するのは低レベル核廃棄物で、ドラム缶に一時間抱きついててもレントゲン1回分にも満たない量。もし海洋汚染が起きたとしても、そのマグロを最初に食べるのは日本。地震国日本では陸上廃棄は危険」と説明しました。会議は投棄反対決議を採択しましたが、科学技術庁は「これで説明責任を果たした」とコメントしたのです。

日本は、1955年から千葉沖や三重沖に放射性廃棄物を海洋投棄していましたが、75年のロンドン条約により海洋投棄を停止して21万本のドラム缶がたまっていたのです。

米国もサンフランシスコ沖に核廃棄物を投棄していましたが、ドラム缶が腐食して周辺が放射能で汚染されていることが暴露されていました。また、水産庁も相模湾の投棄地点から高濃度の放射能を検出したことを発表しました。

マリアナ諸島議会議長らは来日して「投棄強行なら、日本漁船を閉め出す運動も辞さない」と述べました。テニアン市長も来日して「投棄強行なら、日本人戦没者の慰霊碑も全部海洋投棄しようと考えている。遺骨収集も許可しない」と発言しました。

しかし、日本の姿勢は変わらず、マーシャル諸島共和国は「すでに放射能に汚染された島を、核廃棄物の一時保管所として使え

ないか」と提案しました。多額の援助と引き替えのこの提案は、  
ビキニ住民などの強固な反対にあって、実現しませんでした。

### 【問題】

パラオ憲法制定会議は、米国が反対する非核条項などが入った  
憲法案をそのまま住民投票にかけることを決めました。しかし、  
親米派が多数（23/33）を占めるパラオ議会は、「憲法案を無効に  
するための法案」を議会に提出しました。これに対して憲法擁護  
派（10/33）は、議会をボイコットしました。これにより、議会は  
定足数（25名）を満たすことが出来ず、審議は中断となりました。  
しかし親米派は、採決を強行し、「憲法案を無効」とし、「住民投  
票を実施しない決議」を採択しました。

これに対して、憲法擁護派は「議決無効」を信託統治裁判所に  
訴えました。そして、議会の管轄下でないパラオ選挙管理委員会  
は、予定通りに憲法案の住民投票を実施したのです。

では、パラオ住民は、議会多数派が反対したこの憲法案に賛成  
したのでしょうか。

予想

- ア 多くが賛成した
- イ 半々だった
- ウ 多くが反対した

裁判の判決はどうだったのでしょうか。



## 住民の意思

1979年7月、パラオ共和国憲法は、92%の圧倒的賛成多数により承認されました。しかし、親米派による議会は「投票結果は無効」とし、「修正憲法案」の起草に取りかかりました。信託統治領裁判所の判決も「パラオ議会の議決は有効であり、住民投票は無効」としたものでした。

## 【問題】

そして、米国がクレームをつけた部分を修正した憲法案が10月に住民投票にかけられることになりました。では、住民投票の結果はどうだったと思いますか。

## 予想

- ア 多くが賛成
- イ 半々
- ウ 多くが反対



パラオ、カヤンゲル島  
Copyright 2006 Palau  
Visitors Authority

## 原憲法支持

住民投票の結果、賛成は31%、反対は68%で修正憲法案は承認されませんでした。この民意は、パラオ議会選挙でも反映されて、多くの原憲法擁護派が当選し、議会の多数派を占めました。そして、パラオ議会は、もともとの憲法案を再度住民投票にかけることを決定しました。

住民投票で、原憲法案は賛成78%、反対19%で成立しました。そして今度は、米国も法的無効性を主張せずに黙認しました。こうしてパラオも非核憲法を持ったのです。

### 【問題】

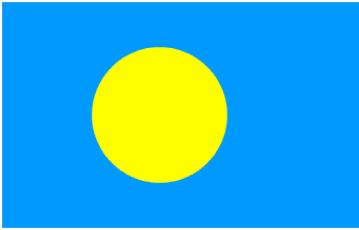
1981年1月、パラオ憲法が施行され、パラオに自治政府が発足しました。では、パラオが制定した国旗のデザインはどんなものだったのでしょうか。次のどの旗に似ていたと思いますか。

予想

- ア ミクロネシア連邦
- イ マーシャル諸島共和国
- ウ 北マリアナ諸島コモンウェルス
- エ そのほか



## パラオの旗



by Zeljko Heimer

パラオの旗は、太平洋を表す地に、「独立の期が満ちた」ことを表す満月が描かれているものでした。このデザインは、明らかに「日の丸」

を意識したものです。マーシャル諸島はナウルを理想としましたが、パラオは日本を理想としたのです。この旗は、国旗コンテストで選ばれたものですが、他にも多く「日の丸」を意識したデザインがあったといえます。

日本がミクロネシアを南洋群島として委任統治していた頃、その中心地は、南洋庁が置かれたパラオでした。その繁栄の想い出が、パラオにこのデザインを選択させたのでしょうか。

### 【問題】

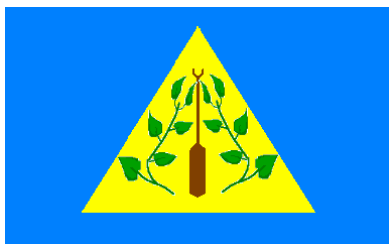
もし、パラオの国旗が日本を理想としたデザインであるなら、パラオに16ある州の旗にも「日の丸」のデザインが多く取り入れられていることでしょうか。それは本当でしょうか。

### 予想

- ア 多くの州旗に「日の丸」が取り入れられている
- イ 一部の州旗だけ
- ウ 「日の丸」のデザインの州旗はない
- エ そのほか

米国旗のデザインを取り入れた州旗はあるのでしょうか。

## パラオ州旗に見る「思い」



パラオ諸島北端にあるカヤンゲルの州旗は、パラオ国旗に似ていますが、満月が三角形に変形されていて、まるで「日の丸」に似ている国旗を否定しているようです。



また、かつて南洋庁があり、現在も首都があるコロールの旗も、三日月と星の意匠だけで、「日の丸」の影響は全くありません。



Ngeremlengui の旗は、国旗の満月の代わりに、島の地図を置いたものですが、その周りに二重になった輪を配置しています。



Ngardmau の旗は「旭日旗」の影響を受けているのかも知れません。

Ngiwal の旗は、「日の丸」の赤と白を反転させたようなデザインです。





Meleleok の旗にも，旭日旗の影響が感じられますが，配色は星条旗のものです。



Ngaraard の旗は，パラオ国旗の中央に赤い星を置いたものですが，これも日の丸と星条旗を合わせたようにも思えます。



Ngarchelong の旗は，明らかに，星条旗と日の丸の両方のデザインを取り入れたものです。



Ngatpang の旗は，日の丸の太陽を外して，リースと灯火を置いたものです。「日本統治時代も良かったけど，平和が一番」と言っているかのようです。

(旗の図はすべて by Andr・Pires Godinho)

つづく

## あとがき

いつもならサークル前は「レポートの追い込み」に入りますが、今月はサークル直前に宿泊学習があって、ここまでです。ゴメンナサイ。パラオの州旗はおまけですねえ。今月で、ミクロネシアの信託統治は終わりを迎えたかにみえますが、実はまだまだかかるのです。ミクロネシアのような自由連合の国を、世界は「独立国」と認めたのでしょうか。そして、ミクロネシアの現状と未来を考えて、いよいよおしまいとなります。

核廃絶の問題は、日本がリーダーシップをとれる立場にいながら、どうもあまりかっこよくありません。核の問題も、どうなるかおたのしみに。

「私達は国旗の選択に相当苦勞した。大募者は悉く各島の人々であり、それぞれの旗にパラオの歴史と伝統がこめられていた。だから、選考委員は真剣であった。選考に日数をかけた。でも、最終的にこの旗に決まったのは、日本の旗に一番似ていので、最大の人氣が集まった。日の丸の部分を黄色にしたのは、月を現わす。周囲の青地は海を意味する。月は太陽が出ないと輝くことができない。つまり月は太陽によって支えられ、月としての生命を持つ。太陽とは日本のことである。海に囲まれたパラオという国は、日本の太陽の反射によって輝かねば生きられないのである。我々はまた戦争中に、日の丸を掲げて強大な米軍と交戦した日本軍將兵の勇敢さと純粹さに、大きな魅力と尊敬を捧げている。一方に及ぶ英靈たちは私達に、勇氣と国を想う心があれば、アメリカよりも強くなれることを教えて死んだのである」

<http://www.nanyou.org/html/palau/history.html>

パラオの国旗については、先月に森永幸夫さんが紹介してくれたように「日本は太陽であり、パラオはその光を浴びて輝く月」とか「日の丸を掲げて強大な米軍と戦い玉砕した日本軍に敬意を表して」などといわれることがあり

ます。もし、パラオの人たちが本気でそう思っているのなら、それは天皇制教育の成果であり、恐ろしいことです。このことは、来月のパラオ憲法を巡る問題について、パラオの人たちがどういう反応を示すかを見てゆけば、明らかになるでしょう。パラオの人たちが見ていた日本は、過去のものなのでしょうか。

子どもたちが大きくなってきてだんだん親から離れてゆくのは、卒業生を出す担任の気持ちにも似ていて、うれしい反面、とっても寂しいものです。卒業生の場合には、すぐに入学生が来てくれるのですが、子どもの場合は、そうもいきませんね。そして、子どもが成長してゆくということは、親は老化していくということで、また新たな老化現象に出会って、難儀しております。笑

丸山秀一 [kasetsu.maruyama@nifty.com](mailto:kasetsu.maruyama@nifty.com)

Maybe you don't know me anymore than I know you  
And I wouldn't blame you if you walked away  
I been watchin' you all evenin' with the teardrops in your eyes  
And it touches me much more than I can say  
Why did you have to leave so soon  
You know I'd hate to think that someone  
could have loved you more than me  
And at times like this I'd be right by your side

Lay your troubles on my shoulders  
Put your worries in my pocket  
Rest your love on me awhile

## 典拠文献

- ・ グローバルヒバクシャ研究会『隠されたヒバクシャ 検証=裁きなきビキニ水爆被災』凱風社，2005
- ・ 豊崎博光『マーシャル諸島 核の世紀』日本図書センター，2005 上下巻で 1000 ページ以上の本
- ・ 島田興生『還らざる楽園 ビキニ被曝 40 年 核に蝕まれて』小学館，1994
- ・ 第五福竜丸平和協会『写真でたどる第五福竜丸』第五福竜丸平和協会，2004
- ・ 川崎昭一郎『第五福竜丸』岩波ブックレット，2004
- ・ 安齋育郎ほか『ヒバクの島 マーシャルの証言』かもがわ出版，2004
- ・ レオン=クルチコフスキー 中元伸幸訳『エセルとジュリアス』未来社，1985，ローゼンバーグ夫妻処刑前の 6 時間を戯曲化したもの。
- ・ アンドリュウ=たりに，小鷹信光ほか訳『FBI』早川文庫，1977，ローゼンバーグ事件を誇らしげに書いた「サンタフェの地図」がある。
- ・ F=X=ブッシュ，庄司浅水訳「ローゼンバーグ事件」『世界ノンフィクション全集 15』筑摩書房，1961
- ・ ハワード=ジン，猿谷要監修『民衆のアメリカ史』TBS ブリタニカ，1993
- ・ 武谷三男『原水爆実験』岩波新書，1957
- ・ 武谷三男編『安全性の考え方』岩波新書，1967
- ・ 武谷三男『死の灰』岩波新書，1951
- ・ ラルフ=E=ラップ，八木勇訳『福竜丸』みすず書房，1958
- ・ 矢内原忠雄『南洋群島の研究』岩波書店，1938  
ほとんどの本の「底本」。
- ・ ロナルド=ウェルチ，斉藤数衛訳『暗黒の海に挑む マゼラン』学習研究社，1971，原著は 1955



- ・ 斉藤達雄『ミクロネシア』ずずさわ書店，1975
- ・ ダンカン＝カースルレイ，生田滋訳『図説 探検の世界史 1 大航海時代』集英社，1975，原著は1971発行。
- ・ 『日本植民地史 3』別冊一億人の昭和史，毎日新聞社，1978
- ・ 矢野暢『日本の南洋史観』中公新書，1979
- ・ 桜井均『ミクロネシア・レポート 非核宣言の島々から』日本放送出版協会，1981
- ・ 小林泉『ミクロネシアの小さな国々』中公新書，1982
- ・ 家長三郎『戦争責任』岩波書店，1985
- ・ 原康史『第一次世界大戦と日本 激録・日本大戦争 25』東京スポーツ新聞社，1987
- ・ 本多勝一『マゼランが来た』朝日新聞社，1989
- ・ マーク＝R＝ピーティ「日本植民地支配下のミクロネシア」『近代日本と植民地 1 植民地帝国日本』岩波書店，1992
- ・ 小林泉『アメリカ極秘文書と信託統治の終焉 ソロモン報告・ミクロネシアの独立』東信堂，1994
- ・ 平間洋一『第一次世界大戦と日本海軍 外交と軍事の接続』慶應義塾大学出版会，1998
- ・ 矢崎幸生『ミクロネシア信託統治の研究』御茶ノ水書房，1999
- ・ 中島洋『サイパン・グアム 光と影の博物誌』現代書館，2003
  
- ・ 板倉聖宣ほか『理科教育史資料』東京法令出版，1986
- ・ 成瀬治ほか監修『山川 世界史総合図録』山川出版社，1994
- ・ 『プロムナード世界史』浜島書店，1999
- ・ 「世界大百科事典 第二版 CD-ROM」平凡社

- ・ 「岩波 日本史事典 CD-ROM」システムソフト
- ・ 「スーパーニッポニカ 2003DVD」小学館
- ・ 「エンカルタ総合百科 2006DVD」マイクロソフト
- ・ 中野文庫 植民地法令  
<http://www.geocities.jp/nakanolib/etc/colony/nanyo.htm>
- ・ 南洋庁関連写真  
[http://www.bunsei.co.jp/NRoss/6\\_southseaagency.htm](http://www.bunsei.co.jp/NRoss/6_southseaagency.htm)
- ・ 岩木みどり「南洋群島における植民地時代の日本語教育年表」  
<http://www.age.ne.jp/x/oswcjlr/longzemi/micronesiatimeline.htm>
- ・ 南洋群島 <http://www.kaho.biz/main/nanyo.html>
- ・ 平高史也「南洋群島における日本語教育」慶応大学講義  
[http://gc.sfc.keio.ac.jp/class/2004\\_14621/slides/08/3.html](http://gc.sfc.keio.ac.jp/class/2004_14621/slides/08/3.html)
- ・ 国立公文書館 <http://www.archives.go.jp/>
- ・ グアム政府観光局 <http://www.i-loveguam.com/main/top.html>
- ・ パラオ アンガウル州立自然公園  
<http://www.ows-npo.org/angaur/index.html>
- ・ パラオ政府観光局  
<http://www.palau.or.jp/index.html>
- ・ マリアナ政府観光局  
<http://japan.mymarianas.com/japanese/index.html>
- ・ マーシャル諸島政府観光局  
<http://www.visitmarshallislands.com/main.htm>
- ・ ミクロネシア連邦政府観光局  
[http://www.visit-micronesia.fm/index\\_j.htm](http://www.visit-micronesia.fm/index_j.htm)
- ・ ミクロネシア はるかなる歩みの歲月  
[http://www.yashinomi.to/micsem\\_j/photos.htm](http://www.yashinomi.to/micsem_j/photos.htm)

- ・ Flags Of The World  
<http://flagspot.net/flags/index.html> 旗の図版はここから
- ・ <http://www.guam-online.com>
- ・ <http://www.saipan-press.com>
- ・ 東京大学東洋文化研究所  
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/documents/texts/pw/19110713.T1J.html>
- ・ 公学校に見る全員教育  
<http://www.bl.mmtr.or.jp/~idu230/his/his/bunken/idumi/syuron/2-2.htm>
- ・ 読売新聞 1921.3.17(大正 10) ヤップ海電問題  
[http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=00104499&TYPE=HTML\\_FILE&POS=1&TOP\\_METAID=00104499](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=00104499&TYPE=HTML_FILE&POS=1&TOP_METAID=00104499)
- ・ 宮内庁「天皇陛下のお言葉」  
<http://www.kunaicho.go.jp/gaikoku/gaikoku-h17saipan.html>
- ・ Bikini Atoll <http://www.bikiniatoll.com/home.html>
- ・ The Nuclear Weapon Archive  
<http://nuclearweaponarchive.org/Home.html>
- ・ Jealous Gay  
[http://homepage.mac.com/ehara\\_gen/jealous\\_gay/index.html](http://homepage.mac.com/ehara_gen/jealous_gay/index.html)
- ・ Rosenbergtrial.org [www.rosenbergtrial.org/](http://www.rosenbergtrial.org/)
- ・ Campaign for Nuclear Disarmament  
<http://www.cnduk.org/index.html>
- ・

## 参考文献

- ・ 島田啓三『冒険ダン吉』少年倶楽部文庫，講談社，1976，もともとは1933～39まで『少年倶楽部』に連鎖されていたもの。
- ・ 船坂弘『秘話パラオ戦記』光人社NF文庫，2000，もとは『玉砕戦の孤島に大義はなかった』1977
- ・ 板倉聖宣ほか『日本の戦争の歴史』仮説社，1989
- ・ 牟田清『太平洋諸島ガイド 南の島の昔と今』古今書院，1991
- ・ 大野俊『観光コースでないグアム・サイパン』高文研，2001
- ・ 三枝篤夫『マーシャルの奇跡 マーシャルの大旱魃を救った日本人たち』蝸牛新社，2002
- ・ 西牟田晴『僕が見た大日本帝国』情報センター，2005
- ・ 小此木真三郎『フレームアップ』岩波新書，1983
- ・ 堀江則雄『もう一つのワシントン報道』未来社，1985
- ・ 荒俣宏『黄金伝説』集英社，1990
- ・ 第五福竜丸展示館 <http://d5f.org/>
- ・ DVD『アトミック・カフェ』竹書房
- ・ DVD『第五福竜丸』角川エンターテインメント
- ・ DVD『ゴジラ』東宝
- ・ DVD『ゴジラ 1984』東宝
- ・ DVD『The Cowra Breakout』1984 オーストラリア
- ・ ビデオ『放射能X』ワーナー・ホーム・ビデオ
- ・ 原水禁 <http://www.gensuikin.org/>